

新約聖書の中の祈り 第3回

□「祈り」に関する学び全体のテーマ

1. 祈りの原則
2. 祈りの3つのタイプ
3. 旧約聖書の中の祈り
4. 新約聖書の中の祈り
5. 祈りの条件
6. 祈りの構成と内容
7. 祈りのルール
8. 祈りの諸問題

□「新約聖書の中の祈り」のアウトライン

1. イエスの祈り
2. 福音書における他の祈り
3. 使徒の働きにおける祈り
4. 書簡における祈り

□「イエスの祈り」のアウトライン

福音書の中から、イエスの祈りについて22の事例を取り上げ、それぞれに祈りの場所や時間、そのときの姿勢、祈りの内容、そして祈りがどのように答えられ、どのような出来事につながっていったか、などを見ていきます。

1. 洗礼を受けたときの祈り
2. 第一のメシア的奇跡をはさんでの祈り
3. 十二使徒を選んだときの祈り
4. 五千人の給食を前にしての祈り
5. 五千人の給食の後の祈り
6. 四千人の給食のときの祈り
7. ペテロの信仰告白を前にしての祈り
8. イエスの変貌のときの祈り
9. 70人の弟子が帰ってきたときの祈り
10. 「主の祈り」に先立つ祈り
11. 子どもたちを祝福したときの祈り
12. ラザロのよみがえりのときの祈り
13. ギリシヤ人がイエスに面会を求めたときの祈り

14. 最後の過越の食事での祈り
15. 最後の過越の食事の間でのペテロのために祈り
16. 将来、聖霊が信者の内に住んでくださることについての祈り
17. 大祭司としての祈り
18. ゲッセマネにおける祈り
19. 差し控えられた祈りについての言及
20. 十字架からの祈り
21. エマオにおける祈り
22. 昇天を前にしての祈り

以上の 22 の事例の祈りを全体的に眺めると、イエスの祈りについて 24 のポイントを挙げる事ができます。これが「イエスの祈り」についての学びの結論部分になります。24 のポイントは、次のとおりです。

1. イエスは、しばしば、一人になって祈るようにしていた。
2. イエスが祈りをした時間帯は、さまざまである。朝であったり、夕であったりである。
3. イエスが祈りをしたときの姿勢も、さまざまである。立って、ひざまずいて、あるいは顔を地面につけて、天を見上げて、というように。
4. イエスの祈りは、しばしば、重要なターニングポイントとなる出来事の直前に祈られている。
5. イエスは、大いなるみわざをするときにも祈った。
6. イエスは、プレッシャーを受けたときにも祈った。
7. イエスは、悲しみのときにも祈った。
8. イエスは、死の直前にも祈った。
9. イエスは、とりなしの祈りをした。ペテロのため、イエスを十字架に釘付けにした兵士たちのため。
10. イエスの祈りの時間は、長ささまざまであった。夜通しや、1時間など。
11. イエスは、父なる神に対して祈った。誰に祈るのか、父なる神である。
12. 祈りのタイプはさまざまである。請願、祝福、感謝、とりなし。
13. イエスは、聖霊に満たされ、喜びにあふれて祈ったことがあった。
14. イエスは、「祈りの本」によらずに、その時その場、自分のことばで祈った。
15. イエスは自分の感情が大きく動く中で祈ったことがあった。
16. イエスは、個人的にも公けにも祈った。
17. イエスは、ほとんどの場合、信者のために祈った。不信者のための祈りは稀である。
18. イエスが祈る動機の中には、神の栄光を含んでいた。そして、私たち自身と他の人々の霊的に益となることを含んでいた。

19. イエスの祈りは、漠然としてはいなかった。誰のために何を祈り求めるのか、はっきりとしていた。
20. イエスは、祈りの中で何かを願い求めるときには、その理由を明確にした。
21. イエスの祈りは、誰かと対話しているような調子であった。
22. イエスは自分の祈りがすべて聞かれているという確信をもっていた。その一方で、祈りの中で求めたことが、すべてそのとおりに答えられたというわけではない（マタイ 26 : 36～46）
23. イエスは、祈りの中で何かを願い求めるときには、父なる神のみこころにかなうのであれば、という条件付きで求めた。
24. イエスは、祈りの中で何かを願い求めるときに、その願いを繰り返し言うことがあった。

□本日の事例 11 番から 13 番まで

11. 子どもたちを祝福したときの祈り

(1) マタイ 19 : 13～15

(2) 状況

- ① イエスに手を置いて祈っていただこうと、子どもたちが連れて来られた。
- ② 弟子たち（使徒たち）は、彼らをしかった。
- ③ しかし、イエスは言われた。「子どもたちを許してやりなさい。邪魔をしないでわたしのところに来させなさい。天の御国はこのような者たちの国なのです」
- ④ そして、イエスは手を彼らの上に置いて（祈って）から、そこを去って行かれた。

(3) 文脈

- ① 19 章 1～15 節は、「妻、独身者、子ども」という、当時のユダヤ人たちの感覚では、一人前の人としては扱われない立場の人々に対するイエスの態度が記されている。
 - 「天の御国のために、自分から独身者になった者もいる」（19 : 12）・・・先駆者ヨハネ、イエス、パウロ（I コリ 9 : 5）、独身は聖霊の賜物（I コリ 7 : 1、7）、14 万 4 千人のユダヤ人たち（黙 7 : 3～8、14 : 1～5）
- ② 19 章 16～24 節では、対照的に、ひとかどの人物として認められる人、従ってメシアの王国に入るのに一番近い人と評価されるような立場の人が登場する。「地位も富もある青年」である。当時のユダヤ人たちの感覚では、「金持ち」は神から祝福を受けている人々である。しかし、イエスは、「金持ちが天の御国に入るのはむずかしい」と語る。金持ちは神に信頼するよりも、自分

の富を頼りとしがちだからである。

- ③ 19章25～26節、イエスの金持ちに対するコメントを聞いた弟子たちは驚き、尋ねた。「それでは、だれが救われることができるのでしょうか。」イエスは彼らをじっと見て言われた。「それは人にはできないことです。しかし、神にはどんなことでもできます。」
- ④ 19章27節～20章16節は、救いに関するのではなく、信者に対する報奨に関することである。
- 27～28節は使徒たちに限定された約束
 - 29節は信者たち一般に対する約束
 - 30節は報奨に関する原則、20章1～16節はその原則について、たとえ話をういて教える。
- (4) 子どもたちに対する弟子たちの態度とイエスの態度の違い
- ① 弟子たちは、イエスを重んじて、子どもたちにイエスを煩わせることのないようにさせようとしたのであろう。子どもたちに向かって、イエスに近づかないように叱った。
- ② イエスは、弟子たちを止めて、子どもたちを自分のところに来るようにさせた。
- ③ このときの記事はマルコ10章14～16節が詳しい。イエスは弟子たちが子どもたちを叱ったのをご覧になり、憤って彼らに言われた。「子どもたちをわたしのところに来させなさい。止めてはいけません。神の国は、このような者たちのものです。まことにあなたがたに告げます。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに、入ることはできません。」そしてイエスは子どもたちを抱き、彼らの上に手を置いて祝福された。
- (5) この祈りの特徴
- ① 祝福のための特別な暗唱文の祈りであろう。
- ② イエスの姿勢：子どもたちを抱き、手を子どもたちの上に置いて祈った。

12. ラザロのよみがえりのときの祈り

(1) ヨハネ 11 : 41～42

(2) 文脈

① ラザロの死 11 : 1～16

- 光と闇 (ヨハネ 1 : 1～14、3 : 19～21、9 : 4～5、11 : 9～11、12 : 35～36、46)

② イエスとマルタ 11 : 17～27

③ イエスとマリヤ 11 : 28～32

④ イエスとラザロ 11 : 33～44

- ⑤ ヨナのしるし【第一】に対する指導者たちの拒否 11:45～53
- ユダヤ人の指導者たちに与えられる「ヨナのしるし」(よみがえり・復活) マタイ 12:38～40
 - 第一：ラザロのよみがえり、第二：イエスの復活。マタイ 12:41～45、指導者たちは、第二の復活を見ても拒否するであろうという預言。そのとおり、彼らはイエスの復活を知っても拒否した(マタイ 27:62～28:4、11～15、使徒 1～7章)
 - 第三：二人の証人の復活(黙 11:11～12)→黙 11:13「天の神をあがめた」、黙 12:6「女は荒野へ逃げた。そこには、1260日の間、彼女を養うために、神によって備えられた場所があった」→ホセア 5:15～6:3
- (3) この祈りの特徴(ヨハネ 11:41～42)
- ① 姿勢：イエスは目を上げた
 - ② 祈る対象：「父よ」、父なる神に祈る
 - ③ 祈りの回数：「わたしの願いを聞いてくださったことを感謝します」→ここでの祈りの前に、すでに祈っていた。ここでの祈りは、2回目である。
 - ④ 祈りの種類：感謝の祈り、神が祈りに答えてくださったことに感謝する。
 - ⑤ 神が祈りを聞いていてくださることについての確信：42節「わたしは、あなたがいつもわたしの願いを聞いてくださることを知っておりました。」ただし、父は、イエスが求めたとおりにいつも答えたというわけではない。この論点は、18番のゲッセマネにおける祈りで扱う。
 - ⑥ 祈りの内容：42節「回りにいる群衆のため」の祈り。父なる神がイエスを遣わしたということ、彼らが信じるようにとの願い。具体的には、ここでラザロがよみがえることにより、回りにいる人々がイエスをメシアであると認めること。
 - ⑦ この祈りは、個人的な祈りではなく、公の祈りである。
 - ⑧ 祈りの結果
 - ラザロがよみがえった(11:43～44)
 - マリヤのところに来ていて、イエスのみわざを見た多くのユダヤ人がイエスを信じた(11:45)
 - しかし、その報告を受けた指導者たちは、信じないで、むしろイエスを暗殺しようと計画した(11:46～53)
 - ⑨ イエスの対応(11:54)・・・イエスはもはやユダヤ人たちの間を公然と歩くことをしないで、そこから荒野に近い地方に去り、エフライムという町に入り、弟子たちとともにそこに滞在された。【エルサレムの北方約20km、サマリヤの地域内】

13. ギリシヤ人がイエスに面会を求めたときの祈り

(1) ヨハネ 12 : 27~28

(2) 文脈

- | | |
|--------------------------|------------|
| ① 過越の祭りの6日前、ベタニヤに到着 | 12 : 1~11 |
| ② その翌日、エルサレムに、ろばの子に乗って入城 | 12 : 12~19 |
| ③ ギリシヤ人がイエスに面会を求める | 12 : 20~22 |
| ④ 永遠のいのちへの招き | 12 : 23~36 |

(3) ここでの祈りの特徴 (12 : 27~28)

- ① 祈りの対象：父なる神
- ② イエスの心境：「今わたしの心は騒いでいる」、イエスの胸中には感情的な葛藤があった。それゆえ、父の方に向きを変え、祈りに入った。
- ③ 祈りの内容：自分が死なずに済むようにとは決して祈るつもりはない、と覚悟のほどを述べている。イエスの願いは、28節「父よ。御名の栄光を現わしてください」、直訳「父よ。あなたの御名をあがめます」(賛美)
- ④ 祈りに対する父なる神の応答：天から声を響かせた。3回目のバット・コル。3回ともすべて、その前にイエスが祈っていた。今回のバット・コルは、「わたしは栄光をすでに現したし、またもう一度栄光を現わそう」
 - 「わたしはすでに栄光を現わした」
 - ◇ 1 ; 14 私たちはこの方の栄光を見た (マルコ 9 : 2~8、Ⅱペテ 1 : 16~18)
 - ◇ 2 : 11 最初のしるし
 - ◇ 3 : 2 イエスが行う奇跡は、神がともにおられることの証し
 - ◇ 11 : 4、40 ラザロのよみがえり
 - 「またもう一度栄光を現わそう」
 - ◇ 12 : 16、23~24 イエスの復活 (Ⅰペテ 1 : 21)
- ⑤ この祈りは、個人的な祈りではなく、公の祈りである。
 - 1番のイエスの受洗のときの祈り、これも人前での祈り、公けの祈りであった。その内容は請願、父なる神がイエスをメシアであることを認証・宣言してくださるよう、との内容であったと推定される。この祈りが第1回のバット・コルにつながった。
 - 今回の公けの祈りの内容は、賛美である。